



みどりを育む

# 横造協だより



発行 Vol.24  
 社団法人 横浜市造園協会  
 広報委員会  
 横浜市中区尾上町1-6 住友生命横浜関内ビル7階  
 TEL 045-662-9897 FAX 045-664-5633  
 http://www.yokohamashizen.or.jp



伝統的造園技能・技術講習会

効果が高  
 めるため  
 の事業を  
 行う社  
 会資本整  
 備に關す  
 る基幹事  
 業ととも  
 に、関連  
 する事業  
 や費用対  
 効果を高  
 めるため  
 の事業を



(社) 日本造園建設業協会  
 会長 藤巻 司郎

## いのちを支える造園技術で 持続可能な未来へ

業界実践スローガン

平成22年6月21日に開かれた、(社) 日本造園建設業協会総会において、藤巻司郎氏(当協会会長、藤巻造園建設(株)社長)が会長職に就任した。これに伴い、同氏より当協会の会長退任の申し出があり、7月20日開催の理事会において新会長に、生駒隆一氏(副会長、生駒造園土木(株)社長)が選任された。ここに、藤巻氏から日造協の事業内容の紹介を掲載する。

### 厳しい時代に大役を担う

今年度より、(社) 日本造園建設業協会の会長という大役を仰せつかりました。

現在は社会全体が変革の時期であり、造園業界にとつて厳しい時代ともいえるこの時期にどれだけ造園業界の力になれるの不安に感じているのも事実です。

性豊かな企業の皆様により構成されており長年、全国各地で日本の素晴らしいみどり環境の創造に貢献しています。

### 提案力と創造力に期待

地方の公共事業については、地方公共団体の創意工夫で、より自由に効率よく行える仕組みとして、「総合交付金」制度が提案されました。これを国土交通省は今年度において、これまででの事業ごとの補助金制度を原則廃止し、地方公共団体が行う社会資本整備に關する基幹事業とともに関連する事業や費用対効果が高めるための事業を

一体的に行うことができる「社会資本整備総合交付金」制度を創設しました。今後、地方公共団体は、3〜5年を計画期間とする「社会資本整備総合交付金」を策定し、これに基づき事業に対してのみ交付金が交付されることとなります。地方公共団体の事業における長期計画や緑の基本計画等をベースとして、私たち

「社会資本整備総合交付金」を策定し、これに基づき事業に対してのみ交付金が交付されることとなります。地方公共団体の事業における長期計画や緑の基本計画等をベースとして、私たち



全国造園フェスティバル

### 組織強化と連携の大切さ

複雑で複合的な社会要請に対する回答が求められているこれからの時代では、一企業だけではなし得ないことが頻出することが予想されます。そのような時こそ業界全体で力を合わせることが大切になるでしょう。また、新たな領域へ踏み出すためにも、メンバーシップを大切にしながら協力し進めなければなりません。この業界を切り拓いてきた先人は常にそのような事を進めてきたと思えます。その思いを引き継いでいきたいものです。

本協会では、今年度、支部交流会を開催し、全国各地の会員との交流を行いました。そこでは地域特有であるものや、また全国的に

これからの「提案の時代」にはますます、社会に対して発信していくことが重要になります。毎年10月に全国各地で一斉に開催する「全国造園フェスティバル」は社会に対する発信の場として、私たちの取組みや、技術、環境に対する技術力などを各地域の会員が自ら地域社会に対してアピールを行っています。また国内だけではなく、世界へ向けての情報発信も求められるでしょう。本協会は、AIPH(国際園芸造園業の基盤は、先人達が育んできた優れた技術力・技能です。その技術を継承し、時代に照らし合わせて常に磨きをかけることが大切です。

造園業の基盤は、先人達が育んできた優れた技術力・技能です。その技術を継承し、時代に照らし合わせて常に磨きをかけることが大切です。

### 地球レベルの視点が必要

これからの「提案の時代」にはますます、社会に対して発信していくことが重要になります。毎年10月に全国各地で一斉に開催する「全国造園フェスティバル」は社会に対する発信の場として、私たちの取組みや、技術、環境に対する技術力などを各地域の会員が自ら地域社会に対してアピールを行っています。また国内だけではなく、世界へ向けての情報発信も求められるでしょう。本協会は、AIPH(国際園芸造園業の基盤は、先人達が育んできた優れた技術力・技能です。その技術を継承し、時代に照らし合わせて常に磨きをかけることが大切です。

家協会)の日本代表機関会として、国際園芸博覧会の開催にカウンターパートとして協力し、また、海外における環境緑化の先進事情の調査・研究などを目的にIFPRA(国際公園レクリエーション管理行政連合)ジャパンの会員としても活動しています。海外との情報交換については、地域レベルを超えて地球レベルの視点でみどり・環境を考えて情報発信を行いたいと考えています。

### 造園業界のあり方を求めて

これからの造園業界のあり方を、本協会の活動も含めて述べてまいりました。いま一度原点に戻って問う必要があるのは、私たち造園業界の存在意義は何なのか? ということです。社会から必要と感ぜてもらえること、また、業界の維持発展のために造園業界で働く人がやりがいを感じられることが大切だと思います。

単なるビジネスチャンスとして「環境」という流行を追いつめるだけではなく、しっかりと考え、地に足を付けた行動をとることが必要だと考えます。造園家として、新たな日本のみどりと環境のために連携することができれば幸いです。

最後にりましたが、(社) 横浜市造園協会会長在任中は会員の皆様にご協力をいただきありがとうございました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

### 〈略歴〉

1966年東京経済大学経済学科卒、69年藤巻造園建設(株)入社、同社94年社長就任。(社) 横浜市造園協会会長を10年務める。08年黄綬褒章受章。66歳。

## 提案の時代に情報発信を

### 生駒隆一氏が会長に就任



藤巻会 長(写真)の退任をうけて、7月20日、藤巻前会長は、協会顧問にて、副会長の生駒隆一氏が、新会長に就任した。

また、9月7日の理事会で、松倉 仁氏(二造園土木(株)社長)が副会長に、藤巻前会長は、協会顧問にそれぞれ就任した。

## (社) 横浜市造園協会 第30回通常総会開催



5月14日ホテル横浜ガーデンにおいて第30回通常総会を開催した。左記議案について審議し、いずれも原案通りに承認された。

【第1号議案】平成21年度事業報告(案)

【第2号議案】平成21年度収支決算(案)

の承認について

【第2号議案】平成21年度収支決算(案)の承認について

総会終了後ご来賓をお迎えして「ハマの緑を育むつどい」を開催した。

## 「ハマの緑を育むつどい」開く



会長

藤巻 司郎

本日はお忙しい中、この様に多くの方々にご臨席いただきまして、ありがとうございます。

4月30日に開催いたしました

いただいたことが、受賞者のみならず当協会のこの事業への大きな励みとなりました。改めてお礼申し上げます。

お陰様で、平成22年度は緑関連の事業の拡大が期待される年度となりました。また11月にはAPECが開かれることと、海外からのお客様にも、緑が多く美しい横浜を感じていただけるよう、私たちにお手伝い出来る事があるかと思っておりますので、ご教示下

さい。

これらを通して緑を扱う私どもとしては、横浜の美しい未来の為に、それを担う子供たちが健やかに育つ環境・情操教育の一助に力を注ぎ、お役に立ちたいと思っておりますので、皆様方の一層のご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

最後になりましたが、本日ご列席の皆様方のご健勝とご発展を祈念いたしまして、あいさつに代えさせていただきます。

## 将来に向け横浜の緑を守る



横浜市副市長

山田 正人

本日は横浜市造園協会第30回総会の開催、誠にありがとうございます。

横浜市造園協会の皆様には、日頃から横浜市行政に多大なるご協力をいただいておりますこと、心からお礼申し上げます。

横浜市造園協会の皆様には、新規拡充施策に取り組んでおり、将来に向けてしっかりと横浜の緑を守っていくことと思っております。

皆様方が日ごろから培われ、また今後共発揮していただき、横浜の緑を守って未来の子供たちに引き継いでいくという決意で我々もおりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

最後にになりましたが本日ご参集の皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。

150周年の年でした。横浜市造園協会の皆様には「150万本植樹行動」の記念事業に多大なるご協力をいただき、多くの立派な木をご寄付いただきました。150万本植樹行動は現在数を集計中ですが、皆様のご協力を待ちまして目標の数字を達成出来る見込みとなっております。

横浜市では昨年度から

## 平成22年度 労働安全衛生大会開く



安全宣言

今年度も当協会独自の「平成22年度労働災害防止目標」(死亡者数0人・休業4日以上の労働災害0人)をたてた。

横浜南基準監督署長平野茂樹様に「建設現場の留意点」をテーマにご講演をいただいた。

### 安全標語 講評

7月23日(金) ホテル横浜ガーデンにおいて、「平成22年度労働安全衛生大会」を開催した。

来賓に横浜南労働基準監督署長・横浜市環境創造局長はじめ道路局・各区土木事務所長の方々をお迎えした。

難しい単語や英語は使わずに普段使っている日常の言葉で素直に表現している。これこそ誰にでも理解できる「みんなの安全標語」だ。事業所と社員が一体となり安全活動を推進する上で打ってつけの安全標語だ。

## 横浜市造園 技術交流会

### 公園施設見学 研修会

4月23日「横浜市造園技術交流会 公園施設見学研修会」を開催した。

研修場所は、「都市公園コンクール」国土交通大臣賞を受賞した、よこはま動物園ズーラシア「チンパンジーの森」・金沢ポンプ場・野島公園旧伊藤博文金沢別邸



チンパンジーの森



旧伊藤博文金沢別邸

邱及びアメリカ山公園。講師は横浜市環境創造局公園緑地整備課他。

当日は、小雨で時期には珍しい寒さではあったが、参加者からは有意義な研修だったとの意見が多かった。

## 「安全標語」入選作品

### 最優秀賞

危険予知 一人の目よりみんなの目  
みんなの予知で無災害  
大橋庭園(株) 鈴木 宏

### 優秀賞

頼るな経験 おごるな自信  
初心にかえって基本作業  
(株) サカタのタネ 吉沢 徹

みんなで確認 作業手順  
今日も一日 安全作業  
(株) 佐藤造園 佐藤 幸樹

安全と思う心に落とし穴  
危険を予知して安全作業  
(株) 誠和緑化 近藤 条二

気を抜くな! 毎日変わる作業場所  
迫る危険に予告なし  
(株) 田澤園 田中 正樹

また、優秀賞の4名の方、う積極的な姿勢が高く評価された。

事故防止の再徹底について」の更なる強化を図る事を目的として開催された。

内容

①公園緑地工事安全講習会(最近の事故事例、建設機材の取扱い等)

②公園緑地工事電子納品の平成22年度の取扱い等について(事前協議書チェックシートの記入例等)

③公園緑地工事における現場の心得

講師 横浜市環境創造局 技術監理課 倉知担当課長他

## 技術監理 講習会

6月29日関内中央ビル大会議室において、本年3月に開催した「電子納品の説明会」のその後の現状について、及び「工事(委託)



# みどりアップ計画の推進について

横浜市環境創造局  
みどりアップ推進部長

## 小山 義訓

### 1 はじめに

4月から当職に就任いたしました。市造園協会ならびに会員の皆様には、本市の緑行政に多大なご支援ご協力をお願いしていることに感謝いたします。

平成21年度から、横浜みどり税を主な財源とする「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」がスタートしました。今回は、平成21年度の成果の概要をお知らせすると共に、これからの取組について説明させていただきます。

### 2 平成21年度の成果 (概要)

平成21年度は計画の初年度として、関係者の周知やPRを進めながら、着実に事業を進めることができました。特に樹林地や農地(水田)の保全について、目標を上回る実績をあげることができました。

#### 【樹林地を守る】

市内に残された貴重な緑について、市民の森などの指定が大幅に進みました。また、指定された樹林地の維持管理を積極的に行い、明るく健全な森づくりを進めました。

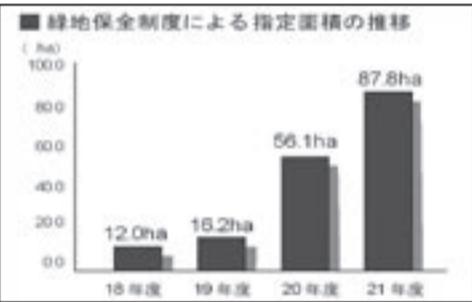
● 樹林地の指定: 87.8ha (市民の森など)

\* 87.8haは、日産スタジアム約13個分の面積になります。

● 維持管理助成: 19件



保全された樹林地 (栄区)



● 間伐材チップ化作業支援: 28回実施

● 樹林地保全の理解を深める講座: 32回実施

#### 【農地を守る】

収穫体験農園の開設が進み、身近な場所で地産地消を実現できる機会が増えました。水田所有者と水稲耕作を継続する契約を結び、多くの水田を保全することができました。

● 収穫体験農園の開設: 1.05ha 9箇所

● 水田の保全: 約89ha 449件

#### 【緑をつくる】

地域ぐるみで緑化活動を行う地区への支援を行い、地域の緑化計画やルールづくりの活動が始まりました。また、子供たちが緑の環境に触れられるように、保育園・幼稚園の園庭の芝生化をおこないました。

● 地域ぐるみの活動が始まった地区: 6地区

● 園庭の芝生化: 16園

● 名木古木の指定: 41本



水田の保全 (青葉区)



保育園や幼稚園の園庭の芝生化 (都筑区)

### 3 緑被率29.8%と市民意識

横浜市では、緑の総量を捉える指標である緑被率

でみると昭和45年に約50%だったものが、平成16年には約31%と減少してしましました。さらに平成21年度の調査では、29.8%となり、平成16年度から21年度までの5カ年で517haの緑が減少(年間約100ha)するなど、緑の減少に歯止めがかかっていない状況が

http://www.city.yokohama.jp/me/kankyou/etc/jyorei/keikaku/midori-up/midori-up-plan/

### 4 みどりアップ計画の推進について

「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」は、緑の多くが民有地であることから、これまでの行政主体的な事業ではなく、土地所有者、市民、事業者の方々の協働により進める施策を大幅に拡充した、新しい形の公共事業ともいえる特徴を持っています。

例えば、中心的な事業である樹林地の保全については、土地所有者の固定資産税などの負担の軽減、相続等不測の事態に対応した買取、維持管理の負担の軽減などの支援策を講じる

「みどりアップ」していただきます！宣言の登録を開始しました。

一人ひとりがコツコツと取り組むことが大きなみどりアップにつながるという機運を醸成することが目的です。登録者にとっては、

・メッセージなどがホームページで紹介される  
・メールマガジンでタイムリーな話題を入手できるなどのメリットがあります。

市造園協会の会員の皆様が行う緑化などの社会貢献(企業CSR)の取組を広く発信・PRするツールとして活用できます。是非、多くの会員の皆さんの参加を期待しています。

### 5 民有地樹林地の維持管理・民有地緑化の助成制度等について

「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」では、民有地の緑に対して、様々な助成を行う事業を行っています。これらの事業の実施は、専門事業者である会員の皆様に担っていただきたい内容になっています。

- ① 樹林地維持管理助成
- ② 名木・古木保存制度
- ③ 屋上緑化等助成
- ④ 生垣助成
- ⑤ 区民花壇助成
- ⑥ 民間保育所・私立幼稚園

の園庭芝生化助成(新規・拡充策)では、以上の緑化に対する固定資産税等の軽減措置) 新たな取組「みどりアップ」しています！

10月から150万本植樹行動を通じて広がった市民や事業者の皆様の緑に対する関心や愛着をさらに育むため、みどりアップにつながる取組を登録する制度

### 6 おわりに

「横浜みどりアップ計画(新規・拡充策)」と「横浜みどり税」は、民有地の緑を新たな時代の市民共有の財産、社会資本としてとらえ、市民全体で支えたいという新たな仕組みであり、土地所有者、市民・企業、行政の広範な協働の取り組みが不可欠です。また、5カ年の事業と税制になっており、この期間での成果を示していくことが重要です。そのためにも、市造園協会の会員の皆様には、実施の部分でのご協力を是非いただき、質の高い緑を実現させ、多くの市民の方々に緑の良さを実感していただくように、ご協力をお願いしたいと思います。

### 樹木に魅せられて (第19回)

## 樹木に強烈な印象を持つ

横浜市泉区 泉土木事務所

下水道・公園係 戸田 恵実



ずいぶん昔のことですが、学生の頃、県立保土ヶ谷公園を散策していたときにです。晴れているのに園路になぜか水たまりがあつて、見上げてみると、剪定したサクラの枝から、水が滴り落ちていたではありませんか。知識では知っていましたが、こんなふうには水を吸い上げて、導管を通して体全体に運んでいるとは思っていませんでした。まるで、血管を血液が巡っているように、樹木が生き物である

と強烈に印象づけられた瞬間でした。

## 緑を守ることに係わりたい

横浜は保土ヶ谷の、三方を樹林に囲まれた家で育った私にとって、野の木や草花は本当に身近な存在でした。今は亡き父が、そこに居を構えることを決めたとき、親戚から「この環境は宝だよ」と言われたそうです。しかし、身近な緑も開発で失われていき、今はみんな住宅地が変わってしまいました。

最初に配属されたのは、

による景観づくりを行うので、ヤシ類など特殊樹木や地被類なども覚ええました。

次の職場は、緑化推進課の公共緑化係で、地区センターや学校、地域ケアプラザなどの公共施設や街路樹の植栽工事を手がけました。建物などの人工物だけの空間に、植物が添えられて景観が一変するのには感概深いものがありました。緑化に用いる樹種を沢山覚えなければなりませんでしたが、知り合いが増えていくような楽しさがあり、知っている樹種を街で見か

## 慣れてしまふことの恐ろしさ

樹木に関わる市民からの要望は、とにかく「切つてほしい」ということが多いです。日照、電波受信障害、落葉、越境などが主な理由です。市民の財産である緑を守っていくという観点から、本市では枝が越境して

いる場合以外を主因とする剪定は、原則として行いません。しかし、生活に密接に関わることで、少しでもご要望にお応えできないかと苦慮しています。本当にケースバイケースの対応です。ただ、剪定した

り間伐したりへの対応が日常になっていくと、生き物であるはずの樹木に対して、あまり心が痛むことがなくなつてきた自分に気付きました。市内に出かけると、自分が手がけた現場に行き当たることがあります。当時イメージしたように管理していただけている場所を見ると、やはり嬉しいものです。その後、樹木を扱う業務から離れて技術監理担当、用地課を経て、南部公園緑地事務所へ異動になり、ここから現在へ続く公園管理の業務に携わることになりました。

## 人の暮らしと緑との折り合い

緑を守りたいという初志は、いったいどこへ行ってしまったのか？ その気持ちがあくなくなくなつてしまつたわけではありません。公園の木々もまた、身近に生きる同胞であり、命を持っている。昔、あの桜に感じたことを忘れずに、適切な管理に努めることで、人の暮らしと緑の保全の折り合いをつけていくことに繋がるよう、心がけていきたいと思ひます。



仲町台地区センターのシンボルツリー



昨年剪定した中田町丸の内公園

## よこはま花と緑の「花壇展」2010

よこはま花と緑の「花壇展」が当協会員19社と横浜農業協同組合にご協力いただき、4月16日から5月5日の期間開催された。

今年度は特に素晴らしい作品が多く各出展会社の趣

### コンクール結果

横浜市長賞

(株) サカタのタネ

【古城】

市民賞

(株) 泰山園

【山水花】

小島造園(株)

【あすへの架け橋】

財団法人横浜市緑の協会理事長賞

生駒造園土木(株)

【花祭り】

市民賞

(株) 泰山園

【山水花】

横浜市長賞

(有) 真田造園

【子供の遊び場】

横浜市環境創造局長賞

(有) 緑生園

【横浜の夜風】



花壇展表彰式

出展社 (花壇番号順)  
相原造園土木(株)・川原造園(株)・(株) 泰山園(株)・サカタのタネ・ワコー緑建(株)・石山造園(株)・(有) ウィステリアグリーン・(有) 真田造園・(有) 緑生園・(株) みやした園芸・(株) 港南北見緑化・生駒造園土木(株)・(株) 丸徳・小島造園(株)・奈良造園土木(株)・一造園土木(株)・(株) 牧野造園・(有) 神之園・(株) 植宗エクステリア・横浜農業協同組合

### 終わりの言葉

広報委員副委員長の大役を承つてから一年半の歳月が過ぎようとしています。最初にお話しをお伺いした時は、副委員長という重責のあるポストは自分には務まらないので何度も「委員であれば」とお話をさせて頂きましたが、「そこを何とかお願いします。」と言われかお願ひします。」と言われて受けてしまいました。最初の一年は右も左も分からず悪戦苦闘でしたが、広報委員会のメンバーにご指導頂き少しずつ広報委員会の仕事の内容が見えてきました。一年半広報委員会に携わつてやっとな片目が開いて来たかどうかです。これからも皆様の足を引っ張らないように日々勉強の毎日です。これからの素晴らしい広報紙であるために皆様の皆様方と一緒に前向きに歩んで行きたいと思つております。造園協会の更なる発展のために皆様の皆様方にご指導ご鞭撻を頂き頑張つて行きたいと思ひます。(広報委員会)